

令和5年度児童館における健全育成活動等開発事業報告書（事業要旨）

1 事業の実施体制

(1) 児童健全育成活動等開発事業 企画・推進会委員会の委員構成

所 属	職 名	氏 名
岩手大学大学院 教育学研究科	准教授	委員長 佐々木 全
特定非営利活動法人 六等星	理事長	齋藤 真也
社会福祉法人盛岡市社会福祉事業団 事務局 総務課	企画総務係長	工藤 彰子
社会福祉法人盛岡市社会福祉協議会 玉山支所	所長	玉山 正彦
盛岡市教育委員会 学校教育課	指導主事	熊谷 優子
盛岡市保健福祉部 障がい福祉課	副主幹兼 相談認定係長	菅原 雅宏
盛岡市子ども未来部 子ども家庭総合支援センター	所長	昆 秀博
盛岡市子ども未来部 子ども青少年課	課長	杉田 博信

(2) 児童館における健全育成活動等開発事業マネージャー

所 属	職 名	氏 名
盛岡市子ども未来部 子ども青少年課 企画係	係長	佐々木 英之
盛岡市子ども未来部 子ども青少年課 企画係	主任	藤原 夏紀

2 企画・推進会議の実施状況

	開催日	内 容
第1回	R5.8.30	児童館の現状報告、事業説明、実施内容の検討
第2回	R5.11.27	利用者等アンケート実施検討、発達障がい児支援専門員活動報告
第3回	R6.1.23	利用者等アンケート結果報告、発達障がい児支援専門員活動報告
第4回	R6.3.26	効果の検証、事業実施報告

3 事業の目的、実施内容、分析及び考察

(1) 事業の目的及び実施内容

目的	児童館・児童センターにおいて、発達障がい児の受け入れや対応等に必要な専門的知識を有する発達障がい児支援専門員を配置（3名）し、児童館・児童センターを巡回して各施設の職員等への支援を行い、子どもの遊びや保護者等からの相談支援体制の充実を図る。
内容	（発達障がい児支援専門員の業務内容） ・児童館・児童センターの巡回支援 ・企画・推進委員会への出席及び活動内容等の報告 ・児童厚生員等の施設職員等を対象とした研修会の開催

(2) 施設職員からの意見・要望（施設職員アンケート調査結果抜粋）

① 巡回訪問

- ・客観的立場から問題に対する見解を指導いただける体制であることが大きなポイント（なくてはならないポイント）と強く感じる。
- ・発達障がい（疑い）児、グレーゾーンの子ども達と定型発達の子供達が共に過ごす施設であるため、専門員の巡回訪問は、有意義な事と感じているので今後も継続していただきたい。
- ・良かった所を教えてもらい自信につながった。これからも相談したい。もう少し長い時間訪問してもらいたい。
- ・児童に話しかけて一緒に遊んでいただき、子どもが喜んでいた。

② 研修

- ・定期に代替で勤務するパート職員にも常勤職員と一緒に学ぶ機会を設けていただけたので職員間の共通理解に大変役に立った。
- ・勤務に対応できる様に研修会で学ぶ機会が増えると自信が持てると思う。研修会の機会を増やしてほしい。
- ・定期的にこのような機会があれば、自身の知識をアップデートすべく、また経験の乏しさを補うべく参加したい。
- ・研修内容は各センターの事例を出しての対応策等を話してほしい。

(3) 事業の分析及び考察

- ・約半年間の事業期間であったが、支援専門員による巡回訪問（相談支援）や研修会の実施は、職員の対応力の向上や不安軽減に貢献しており、発達障がい児の受入体制を向上させるために有効であった。
- ・巡回訪問時以外の随時の相談対応や、施設のニーズに応じた実利的な巡回訪問を希望する声があった。
 - 電話相談での対応や、平日以外の土曜日など施設のニーズに応じた巡回訪問を実施した。土曜日は通常より児童数が少なく、通常の巡回訪問よりも長時間の相談支援ができた。
- ・巡回訪問や研修などにおいて、具体的な手立てや実践事例の情報提供を望む声もあったことから、研修会でのグループワークや、巡回訪問時において事例紹介などを行うことで、より効果が期待できる。

- ・発達障がい児支援専門員への信頼や期待から、事業の継続を望む声や、環境の変化が大きい4月の巡回訪問を希望する声が多くあったことから、効果を検証しながら継続して実施していく必要があると考える。
- ・発達障がい児への包括的な支援に資するため、情報共有などにより児童館・児童センターと学校間の連携促進が必要である。
 - 教育委員会の上承を得て、盛岡市子ども未来部子ども青少年課が小学校の校長・園長会議（令和6年2月16日）に出席して依頼した。